

## ★排泄介助のポイント★

- ・入居者の尿や便には、一見感染症がない方でも薬剤耐性菌が高率に含まれています。また、ノロウイルスなどの消化器症状を起こす病原体も、便中に排出されて施設内で伝播します。誰が何を保有しているか判別できないので、全ての尿・便について同じように注意しながら作業しましょう。
- ・尿や便中の病原体は、トイレや汚物室の環境中にも広がっています。トイレ・汚物室へ入る際にも、病原体に汚染されないように注意しましょう。
- ・便の状態の変化により、ノロウイルスをはじめとする感染性胃腸炎の発症にいち早く気付く可能性があります。入居者の便の性状を確認することは、感染対策上も有用です。

## ■ この作業に必要な個人防護具 ■

・通常の排泄介助  
使い捨て手袋

・排泄物の処理  
・下痢などがあって便が  
飛散する可能性がある場合  
使い捨て手袋  
サージカルマスク  
使い捨てビニルエプロン

・便器等の洗浄・消毒  
・新型コロナウイルス感染症対策など  
使い捨て手袋  
サージカルマスク  
使い捨てビニルエプロン  
フェイスシールド（ゴーグル）



慣れてしまうと、排泄物の取り扱いが  
つい雑になってしまいがちです。  
病原体が伝播する必要なポイントなので、  
感染対策に十分注意して下さい！



## ■ 施設全体の管理 ■

◆ ノロウイルス胃腸炎などの入居者のケースを除けば、排泄物の処理がずさんになっている施設が少なくないと考えられます。「例え感染症が確認されていない入居者であっても糞便や尿は危険」という意識を、スタッフに教育する必要があります。 **守る!**

◆ 汚物室のレイアウト・動線を常に最良のものに検討しましょう。 **守る!**

※汚物槽や、オムツ廃棄容器、汚染されている可能性のある物品（処理前の簡易便器や使用後の陰洗ボトル）の近くに未使用物品が置かれていることのないように、「使用前」「使用后」のエリアを確実に分けて、分かりやすいようにエリア表示を行いましょう。 **守る!**

※可能な限り、清潔な未使用物品は汚物室に置かないようにしましょう。 **目標**



◆ 汚物室は薬剤耐性菌を含む病原体の温床です。入室時・退室時のタイミングで手指衛生を実施することを習慣化させましょう。 **守る!**

◆ 汚物室の中で、手指が汚染される可能性のある時には、手袋を着用しましょう。 **守る!**

※この場合、手指が薬剤耐性菌に汚染されているリスクが高いため、作業後に石けんと流水による手洗いと、手指消毒用アルコールによる手指消毒を併用することが望ましいです。 **目標**

◆ 汚物槽に排泄物を流すときなど、飛び跳ねが起る作業では、手袋に加え、使い捨てビニルエプロン・フェイスシールド（またはゴーグル）を着用することが望ましいです。 **目標**

◆ 汚物室で、周囲を排泄物等で汚染した場合、以下のいずれかの消毒処理を実施しましょう。 **目標**

1. 拭き取ったのちに、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。
2. 中性洗剤で洗浄した後、アルコール消毒を行う。（ノロウイルスを考慮する時には1を行う）
3. 洗浄剤+消毒薬入りのワイプ（環境クロス）でよく拭き取る。

◆ 食事介助を実施中に、汚物室への出入り、尿や便に関わる業務（排泄介助など）を行うことはなるべく避けます。万一実施せざるを得ない場合、その業務後にすぐ手袋を捨てて手指衛生（石けんによる手洗い+アルコール消毒の併用が望ましいです）を実施し、食事介助に戻りましょう。 **守る!**

## ■ 排泄介助（トイレ） ■

<<準備>>

◆ 介助スタッフは手指消毒用アルコールによる手指衛生の後、手袋を着用しましょう。 **守る!**

※新型コロナウイルス感染症（疑い・濃厚接触含む）の入居者では、サージカルマスクと使い捨てビニルエプロン、フェイスシールド（またはゴーグル）の着用も推奨されます。 **目標**

※急性の下痢症状がある場合にも、手袋に加えてサージカルマスク・使い捨てビニルエプロンを着用することを推奨します。【目標】

#### <<実施>>

- ◆着衣介助後、自立している入居者については、石けんによる手洗いを行ってもらいましょう。【守る!】
- ◆自分で手洗いでできない入居者では、手洗いを介助するか、手指消毒用アルコールを手にまんべんなく擦りつけて手指衛生を実施しましょう。【目標】

#### <<片付け・次の作業への準備>>

- ◆排泄終了して清拭介助を行ったら、スタッフは手袋を外し、手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。【守る!】

※入居者が下痢をしていたら、石けんによる手洗いを追加しましょう。【目標】

## ■ 排泄介助（ポータブルトイレ） ■

#### <<準備>>

- ◆介助スタッフは手指消毒用アルコールによる手指衛生の後、手袋を着用しましょう。【守る!】

※新型コロナウイルス感染症（疑い・濃厚接触含む）の入居者では、サージカルマスクと使い捨てビニルエプロン、フェイスシールド（またはゴーグル）の着用も推奨されます。【目標】

※急性の下痢症状がある場合にも、手袋に加えてサージカルマスク・使い捨てビニルエプロンを着用することを推奨します。【目標】

- ◆ポータブルトイレでは、介助スタッフは続けて排泄物の処理を行うことも考慮して、手袋に加え、サージカルマスク・使い捨てエプロンを着用することを推奨します。【目標】

※マスクとエプロンは、排泄物を処理する際に必要です。

#### <<実施>>

- ◆排泄後の後始末の介助を行ったら、着衣を整え、ベッドに移乗してから手指衛生を実施しましょう。  
※清拭したタオル（または使い捨てペーパー等）は必ずビニル袋に入れて密閉し、施設指定の場所に運搬します。【守る!】
- ◆着衣介助後、自立している入居者については、石けんによる手洗いを行ってもらいましょう。【守る!】
- ◆自分で手洗いでできない入居者では、手洗いを介助するか、手指消毒用アルコールを手にまんべんなく擦りつけて手指衛生を実施しましょう。【目標】

※かわりに使い捨ての手拭き用ペーパー（ウェットティシューなど）で拭く方法もあります。【次善策】

## <<片付け・次の作業への準備>>

- ◆排泄物は早めに処理しましょう。排泄物が飛散しないように注意して捨てましょう。同一入居者が使用する場合、排泄物容器は洗剤で洗浄します。**守る!**

※ただし、ノロウイルス胃腸炎の流行時期に下痢がある場合には、消毒処理を追加した方が安全と考えられます。**目標**

※また、日常的にも排泄物容器を洗浄後にアルコール消毒薬（洗浄成分の入っているものを推奨します）や、市販の排泄物容器用の除菌剤等でよく拭いておくと、衛生面だけでなく、臭気等も抑えられます。**目標**

- ◆容器洗浄後には手袋を外し、手指消毒用アルコールまたは石けんによる手指衛生を実施します。**守る!**

※下痢を処理した場合には、石けんによる手洗い+アルコール消毒を併用しましょう。**目標**

- ◆ポータブル便器の便座と蓋をアルコール消毒薬、または洗浄剤・消毒薬含有ワイプ（環境クロス）で簡単に拭き消毒することを推奨します。**目標**

## ■ 排泄介助（尿器） ■

### <<準備>>

- ◆介助スタッフは手指消毒用アルコールによる手指衛生の後、手袋を着用しましょう。**守る!**

※新型コロナウイルス感染症（疑い・濃厚接触含む）の入居者では、サージカルマスクと使い捨てビニルエプロン、フェイスシールド（またはゴーグル）の着用も推奨されます。**目標**

### <<実施>>

- ◆清潔な尿器（洗浄後乾燥した尿器）を使用しましょう。**守る!**

- ◆排泄終了して清拭介助を行ったら、スタッフは手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。この際、手袋をいったん外すことが望ましいです。**目標**

※介助中に、別の作業にいったん移る際には、手袋を外して手指衛生を実施する必要があります。

**守る!**

- ◆清拭したタオル（または使い捨てペーパー等）は必ずビニル袋に入れて密閉し、施設指定の場所に運搬します。**守る!**

## <<片付け・次の作業への準備>>

- ◆着衣介助を実施し、尿を廃棄しましょう。尿が飛散しないように丁寧に運搬しましょう。**守る!**

- ◆尿を廃棄後、尿器を流水でよく流し、洗剤で洗浄します。**守る!**

※尿器内部だけでなく、表面もよく洗浄します。 **守る!**

※ポータブルトイレ同様、日常的にも尿器を毎回使用後に洗浄してアルコール消毒薬や、市販の除菌剤等でよく拭いておくと、衛生面だけでなく、臭気等も抑えられます。 **目標**

◆尿器洗浄後には、手袋を外して手指衛生を実施しましょう。 **守る!**

◆尿器を保管する（吊り下げる）周囲も、アルコール消毒薬、または洗浄剤・消毒薬含有ワイプ（環境クロス）で簡単に拭き消毒することを推奨します。 **目標**

## ■ 排泄介助（簡易便器） ■

### <<準備>>

◆介助スタッフは手指消毒用アルコールによる手指衛生の後、手袋を着用しましょう。 **守る!**

※新型コロナウイルス感染症（疑い・濃厚接触含む）の入居者では、サージカルマスクと使い捨てビニルエプロン、フェイスシールド（またはゴーグル）の着用も推奨されます。 **目標**

※急性の下痢症状がある場合にも、手袋に加えてサージカルマスク・使い捨てビニルエプロンを着用することを推奨します。 **目標**

◆簡易便器では、介助スタッフは続けて排泄物の処理を行うことも考慮して、手袋に加え、サージカルマスク・使い捨てエプロンを着用することを推奨します。 **目標**

※マスクとエプロンは、排泄物を処理する際に必要です。

### <<実施>>

◆清潔な簡易便器を使用しましょう。 **守る!**

◆排泄終了して清拭介助を行ったら、スタッフは手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。この際、手袋をいったん外すことが望ましいです。 **目標**

※最低限、手袋の上からの十分なアルコール消毒を行います。 **次善策**

※ただし、別の作業にいったん移る際には、手袋は外し手指衛生を実施する必要があります。 **守る!**

◆清拭したタオル（または使い捨てペーパー等）は必ずビニル袋に入れて密閉し、施設指定の場所に運搬します。 **守る!**

### <<片付け・次の作業への準備>>

◆着衣介助後、排泄物は早めに処理しましょう。排泄物が飛散しないように注意して運搬しましょう。 **守る!**

◆便廃棄後、便器を流水でよく流し、洗剤を用いてスポンジ等で洗浄します。 **守る!**



※ポータブルトイレ同様、日常的にも便器を毎回使用後に洗浄してアルコール消毒や、市販の除菌剤等によく拭いておくと、衛生面だけでなく、臭気等も抑えられます。【目標】

※ノロウイルス胃腸炎流行時期に下痢がある場合には、消毒を追加した方が安全でしょう。【目標】

◆便器洗浄後には手袋を外し、手指消毒用アルコールまたは石けんによる手指衛生を実施します。【守る！】

※下痢を処理した場合には、石けんによる手洗い+アルコール消毒を併用しましょう。【目標】

## ■ 陰洗ボトルの注意点 ■

◆陰洗ボトルは病原体が伝播する原因となるため、複数の入居者に連続して使用してはいけません。【目標】

◆どうしても陰洗ボトルの数が足りない場合、最低でも入居者ごとに、消毒用アルコール、または洗浄剤+消毒薬含有ワイプ（環境クロス）などでボトルの表面全体を拭き消毒します。【次善策】

◆使用後の陰洗ボトルは毎回洗浄・消毒します。そのまま翌日使用しないようにします。【ダメ！】

※陰洗ボトルの洗浄・消毒については、「物品の洗浄・消毒」の項を参照して下さい。

## ■ 個人使用が終わった後の便器等の扱い ■

◆便器や尿器を介して、様々な病原体が施設内に伝播するため、個人専用での使用が終わった後には、消毒処理をして清潔に保管することが重要です。【守る！】

※便器等の洗浄・消毒については、「物品の洗浄・消毒」の項を参照して下さい。

◆最終使用後に消毒処理に出す場合、ビニルに密閉して施設で決められた場所へ運びます。丸裸のまま汚物室やトイレの床などに直置きしないように注意して下さい。【ダメ！】

◆消毒処理を行った物品は、消毒済であることがわかるように掲示をするか、清潔物品の置き場を決めて管理しましょう。【守る！】

◆同じ入居者に使用する物品であっても、1週に1回は同様の消毒処理を行うと、衛生面だけでなく、臭気等も抑えられます。是非実施しましょう。【目標】

※この手順書は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受けて作成したものです。

採択年度：2018年度 事業名：長寿・障害総合研究事業 研究期間：2018年4月—2021年3月

課題名：長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発 研究代表者：笹原鉄平（自治医科大学）